

## 事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 森脇馨 (基盤整備班主幹 高林主佳)	内線	4003 (4014)
------	---------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	地区名	総事業費 (内用地補償費)	6.1 億円 (0.0 億円)
		農地整備事業	夜久野高原地区		
所在地				着工予定年度	完成予定年度
朝来市和田山町白井、宮、久田和				平成 30 年度	平成 34 年度
事業目的			事業内容		
<p>本地区は、高原にある肥沃な黒土の畑地帯であり、近年に 2 法人が参入し、法人を主体として野菜生産を拡大したいが、農業用水を確保できないなど耕作条件が悪く、取り組みにくい状況にある。</p> <p>このため、ほ場整備により農作業の省力化を図り、野菜の生産拡大を行うとともに、法人等への農地集積により効率的かつ安定的な農業経営を実現する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区画整理 29.0ha</li> <li>・ 事業主体 兵庫県</li> </ul> <p>[負担割合 国：62.5%、県：27.5%、市：10%]</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<p>本地区は、平成 27 年から法人 2 者（株式会社、農事組合法人）が営農に参入しているが、ほ場の区画が小さく不整形なうえに農道が狭いことから、大型機械化を進めることが困難である。また、野菜作に必要な用水を確保できないため経営規模拡大の支障となっている。</p> <p>このような状況の中、法人を中心に野菜の生産拡大を行い、力強い農業経営を展開していくためには、農作業の大型機械化や用水供給を可能とする基盤整備が必要である。</p>				
(2) 有効性・効率性	<p>① 費用便益費 <math>B/C = 2.1</math></p> <p>② 労働時間の短縮による担い手の育成、作物生産の増加</p> <p>a) ほ場整備及びこれに伴う農業機械の導入等による労働時間の短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10a 当たりの労働時間 岩津ねぎ 781hr → 174hr (78%減)</li> <li style="padding-left: 40px;">キャベツ 128hr → 92hr (28%減)</li> </ul> <p>b) 担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担い手数 (認定農業者[法人]) 2 経営体 → 2 経営体 (経営規模拡大)</li> <li style="padding-left: 40px;">(認定農業者[個人]) 1 経営体 → 1 経営体 (経営規模拡大)</li> <li>・ 担い手への農地集積 4.6ha → 24.2ha (集積率 83%)</li> </ul> <p>c) 野菜等の作付面積・生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩津ねぎ他白ねぎ 2.0ha → 9.6ha (4.8 倍増)、年間生産量 84t 増</li> <li>・ キャベツ 5.8ha → 8.2ha (1.4 倍増)、年間生産量 112t 増</li> <li>・ じゃがいも 0.0ha → 3.1ha (新規導入)、年間生産量 33t 増</li> </ul>				
(執行環境状況)	<p>③ 地元集落では、耕作放棄となるのをかろうじて防いでいる状況にあるが、ほ場整備を契機に(株)緑の風農場等に営農を任せ、(株)緑の風農場等は、ほ場整備により岩津ねぎ・キャベツ等の生産拡大やじゃがいも・レタス等の新規生産に取り組もうとする機運が高まっている (地元の事業同意率 100%)。</p>				
(3) 環境適合性	<p>地区内約 4 ha に並木エリアがあり、良好な景観を生み出していることから、当該エリアを環境保全エリアとして設定し、景観及び生態系の保全を図る (希少種なし)。</p>				
(4) 優先性	<p>ほ場整備を契機に法人への農地集積や野菜の増産等に取り組む地元の機運が高く、「ひょうご農林水産ビジョン2025」に掲げる「野菜等園芸作物の生産拡大」を先導する優先性の高い地区である。</p>				

# 平成30年度新規採択希望 農地整備事業 夜久野高原地区 位置図



地図出典:国土地理院作成地図

# 農地整備事業 夜久野高原地区

やくのこうげん



事業概要：ほ場整備 29.0ha（関係戸数88戸）  
所在地：朝来市和田山町白井、宮、久田和  
事業期間：H30～34  
総事業費：6.1億円

### 事業目的等：

本地区は高原にある肥沃な黒土の畑地帯であり、近年に2法人が参入し、法人を主体として野菜生産を拡大したいが、農業用水を確保できないなど耕作条件が悪く、取り組みにくい状況にある。

このため、ほ場整備により農作業の省力化を図り、野菜の生産拡大を行なうとともに、法人等への農地利用集積により効率的かつ安定的な農業経営を実現する。

	現況	計画
担い手数	個人 1経営体	法人 1経営体
担い手への農地集積[集積率]	2法人 4.6ha [15%]	2法人 24.2ha [83%]
野菜の生産拡大	岩津ねぎ等 7.8ha	岩津ねぎ等 21.4ha

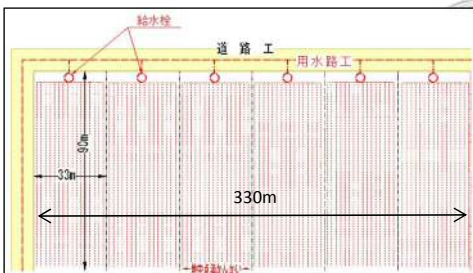


大町大池  
貯水量14万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>



環境保全エリア

標準区画割図  
3.0ha



- ・農作業準備休憩施設の設置
- ・育苗施設用地の創出

ほ場-2-3

凡例

	畑
	非農用地
	支線用水路
	支線排水路
	支線農道
	揚水機
	ファームポンド
	県道
	ため池

1 スケジュール

工種	H30	H31	H32	H33	H34
実施設計	[Bar chart showing implementation from H30 to H34]				
区画整理工	[Bar chart showing implementation from H31 to H34]				
その他(換地)	[Bar chart showing implementation from H30 to H34]				

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 総便益(B)の項目

事業	B(総便益)	算出方法
ほ場整備	①営農経費節減効果	区画拡大や道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果を算出
	②作物生産効果	ほ場整備により農業機械導入が可能になることや田畑輪換が容易になることに伴い、作付面積や収量が増加する効果を算出
	③品質向上効果	農道舗装により出荷する農産物の荷痛みが防止されることに伴い、作付面積や収量が増加する効果を算出
	④維持管理費節減効果	ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果を算出(新規整備の場合、施設数が増加することから、マイナス効果となる)
	⑤走行経費節減効果	農道整備により車両稼働時間が短縮されることに伴い、人件費や車両経費などの走行経費の節減される効果を算出
	⑥耕作放棄地防止効果	ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果を算出
	⑦公共用地創設事務節減効果	区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果を算出
	⑧国産農産物安定供給効果	国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果を算出(農林水産省実施のアンケート調査結果をもとに算定)

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(総便益)		C(総費用)			B/C	
		便益額(百万円)	代表的な効果	総費用(百万円)	※事業費(百万円)	維持管理費(百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	①営農経費節減効果	2,117	労働時間の短縮(岩津ねぎ) 781→174時間/10a	1,130	938	192	2.1
		②作物生産効果	149	作付面積の増加 岩津ねぎ等21.9ha増				
		③品質向上効果	17	荷痛み防止による品質向上 キャベツ出荷3%向上				
		④維持管理費節減効果	△45	道路・水路延長増に伴う維持管理費の増				
		⑤走行計費節減効果	35	輸送及び通作距離の短縮 4.1Km→1.9Km				
		⑥耕作放棄地防止効果	1	将来発生が予測される耕作放棄地を防止				
		⑦公共用地創設事務節減効果	4	市道用地の創出				
		⑧国産農産物安定供給効果	143	農産物の供給量の増				
		計	2,419					

注1)費用便益比算定:「土地改良事業における経済効果の測定方法について」(農林水産省構造改善局長通達)による  
 注2)※事業費は、当該事業費+事業着手時点の既存施設資産価値-評価期間(45年)終了時点の施設資産価値  
 注3)四捨五入により計が合わない場合がある

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県土の保全(地下水のかん養、農地・農村における災害の抑制)</li> <li>・ 農村の活性化</li> <li>・ 地域交通の利便性の向上</li> </ul>
--